



一般廃棄物処理施設の整備

平成29年度予算(案) 51,240百万円(51,240百万円)
(平成28年度第2次補正予算 44,990百万円)

事業目的・概要等

背景・目的

- 市町村等が廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)を総合的に推進するため、市町村の自主性と創意工夫を活かした広域的かつ総合的な廃棄物処理・リサイクル施設の整備を支援している。
- 平成当初以降にダイオキシン類対策のため整備した廃棄物処理施設の老朽化に対応するため、新たな更新需要も踏まえ、循環型社会構築に寄与できる一般廃棄物処理施設の整備に取り組む必要がある。
- ごみ焼却施設を中心とする地域の廃棄物エネルギー利用のポテンシャルは高く、自立・分散型エネルギー拠点としての役割が期待できるとともに、施設の災害対応能力を強化することで、大規模災害時における地域の災害対応拠点としての役割も期待できる。

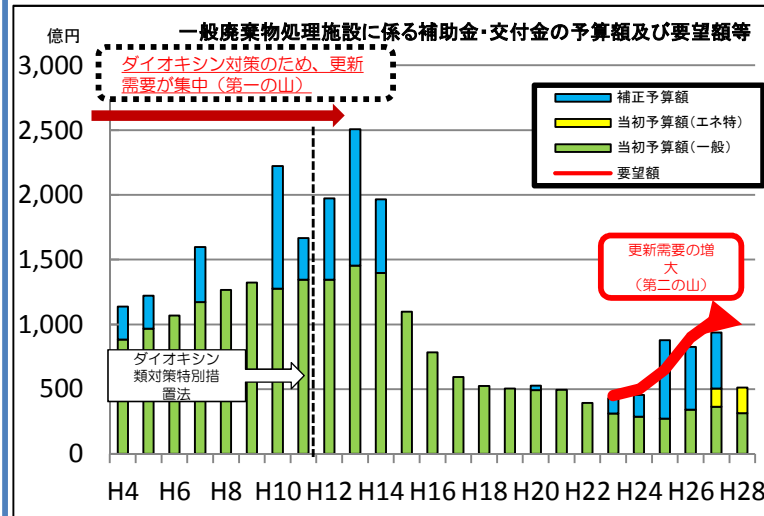
事業概要

- 市町村等が行う地域の生活基盤を支えるための社会インフラである廃棄物処理施設の整備を支援。
- 更新需要の増大を踏まえ、施設の更新時期の平準化に資する施設の改良による長寿命化の取組を重点的に支援。併せて、高効率エネルギー回収及び災害廃棄物処理体制の強化に資する取組も重点的に支援。

期待される効果

- 老朽化した廃棄物処理施設の適切な更新を行う一方、施設の改良による長寿命化を図ることで、地域における安全・安心を確保。
- 地球温暖化対策や災害対策の強化により、地域における自立・分散型エネルギー拠点や災害対応拠点となる処理施設を構築。

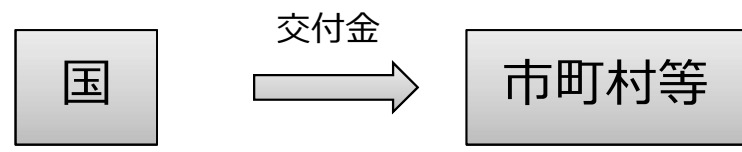
イメージ



〈廃棄物焼却施設・老朽化の現状〉
 全国1,162施設のうち
 築20年超: 417施設
 築30年超: 184施設
 築40年超: 28施設



事業スキーム



【交付先】
市町村等(一部事務組合、広域連合、特別区含む)

【交付対象施設】
ごみ焼却施設、最終処分場、既存施設の基幹的設備改良事業、等

【交付率】
交付対象経費の1/3。ただし、一部の先進的な施設については1/2。